古事記神話の再話作品のテキストについて その2

一黄泉の国訪問神話の場合―

原田留美

Study of depiction of rewritten works of Kojiki myth 2

— In the case of Yominokunihoumon —

Rumi Harada

要旨:

本稿の目的は、児童書の『こんなにおもしろい日本の神話(1) 天地の始まり編 アマテラス』(渡邉版) と『絵物語古事記』(富安版) の黄泉国訪問神話の章を比較することで、前者のテキストの特徴を明らかにすることである。分析の結果、富安版が登場人物の心理や状況についてわかりやすい形でより詳しく描いているのに対し、渡邉版では古事記に沿った簡潔な記述になっていることが確認できた。両作品の想定読者層には重なるところがあるが、テキストの行間を補完してくれる挿画が少なく、登場人物の心理や状況についてのわかりやすい描写もない渡邉版を楽しむには、相応の読書力が求められると考える。

キーワード:

古事記 再話 黄泉の国訪問神話

I. はじめに

前稿において、古事記を再話した児童書『絵物語古事記』(偕成社 2017年)のテキストについて、分析・考察を試みた。その結果、より幼い子どもでも親しみやすいオノマトペを多用するなどの表現上の工夫をこらしつつ、古事記にはない心情描写や状況描写に筆を割いているという特徴を見いだすこととなった¹⁾。

本稿では、想定読者層が『絵物語古事記』と 重なる『こんなにおもしろい日本の神話(1) 天 地の始まり編 アマテラス』に収載されている 黄泉国訪問神話の再話物語を取り上げ、『絵物 語古事記』の当該箇所と比較することで、テキ ストの特徴を明らかにすることを目的に分析・ 考察を試みることとする。

II. 『こんなにおもしろい日本の神話』シリーズについて

テキスト分析の前に、『こんなにおもしろい日本の神話』シリーズのあらまし―収載されている話の範囲、挿絵の量、表記等―について、『絵物語古事記』との比較をしつつまとめておくこととする。なお、以降、本シリーズ作品を渡邉版と称す。

本シリーズは、2021年度に汐文社から刊行された。体裁はハードカバーで、「1 天地の始まり編 アマテラスほか」「2 地上の神々編オオクニヌシほか」「3 英雄の冒険編 ヤマト

タケルほか」の全3巻からなる。『絵物語古事記』が収載しているのは「海幸彦と山幸彦」までで、古事記上巻の再話作品となっているのに対し、本書には古事記中巻に見えるカムヤマトイワレビコの東征やヤマトタケルの物語も含まれている。

再話ならびに監修は、日本上代文学・国学の研究者である國學院大學研究開発推進機構の渡邉卓。カバー絵と挿画は、書籍やゲーム等のイラストレーターとして活動している六七質と24の手によっている。

平成29年度から令和2年度にかけて、國學院大學は「古事記学の推進拠点形成―世界と次世代に語り継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信―」という事業に取り組んでいた。その活動の一つに、古事記に忠実な子ども向けテキストの作成が含まれていた。その実現には、感染症流行による活動制限も含めて様々な経過があったようだが、本書はこの事業から生まれた成果物の一つである²⁾。

なお、これまでも、古事記研究を踏まえた、あるいは古事記研究者が関わった子ども向けの古事記の再話テキストは刊行されてきた。今回渡邉版との比較に用いる『絵物語古事記』(再話は富安陽子。挿画はアニメーション作家で絵本作家の山村浩二。以降、本作を富安版と称す。)にも、古事記研究者の三浦佑之が監修者として関わっている。また、岩崎書店から出ている『日本の神話えほん』シリーズには、谷口雅博が編集協力者として関わっている³3。

挿画の扱いであるが、富安版はすべてのページにイラストが配置されているけれども、渡邉版のイラストはさほど多くはない。渡邉版の黄泉国訪問神話の再話は32~48ページに掲載されているが、イラストが占めているのは4ページのみである。渡邉版は、テキストに重心が置

かれている作品と言えるだろう。

表記については、渡邉版ではすべての漢字に ふりがなが付されている。一方で、「瞬く」「醜 い」「挿す」など、学年別漢字配当表には含まれない漢字のみならず、「櫛」や「葡萄」など、常用漢字ではないものも使われている。富安版では、ほとんどの漢字にふりがなが付されているが、「国」「頭」など、学年別漢字配当表の第一学年・第二学年欄に見えるものにはふりがなはない。「櫛」や「葡萄」等、小学生にとっては難易度の高い漢字は用いられず、ひらがなで表記されている。出版社が想定している読者層は、渡邉版が「小学校中学年から」であり、重なるところもあるが、渡邉版の方がより高い年齢の子どもたちを視野に置いている。

文体に関しては、渡邉版は敬体、富安版は常体となっている。なお、富安版には、読者に向かって語りかけるような表現が散見される。

以上のような点を踏まえつつ、次節では、渡 邉版の「第二章 黄泉の国」と、富安版の「黄 泉の国」のテキストを比較し、渡邉版の特徴に ついて整理していくこととする。

参考までに、古事記の黄泉国訪問神話の訓読 文を以下に載せる⁵⁾。

是に、其の妹伊耶那美命を相見むと欲ひて、黄泉国に追ひ往きき。爾くして、殿より戸を縢ぢて出で向かへし時に、伊耶那岐命の語りて詔ひしく、「愛しき我がなに妹の命、吾と汝と作れる国、未だ作り竟らず。故、還るべし」とのりたまひき。爾くして、伊耶那美命の答へて白さく、「悔しきかも、速く来ねば、吾は黄泉戸喫を為つ。然れども、愛しき我がなせの命の入り来坐せる事、恐きが故に、還らむと欲ふ。且く黄泉

神と相論はむ。我を視ること莫れ」と、如此白して、其の殿の内に還り入る間、甚久しくして、待つこと難し。故、左の御みづらに刺せる湯津々間櫛の男柱を一箇取り闕きて、一つ火を燭して入り見し時に、うじたかれころろきて、頭には大雷居り、胸には火雷居り、腹には黒雷居り、陰には析雷居り、左の手には若雷居り、右の足には伏雷居り、左の足には鳴雷居り、右の足には伏雷居り、井せて八くさの雷の神、成り居りき。

是に、伊耶那岐命、見畏みて逃げ還る時 に、其の妹伊耶那美命の言はく、「吾に辱 を見しめつしといひて、即ち予母都志許売 を遣はして、追はしめき。爾くして、伊耶 那岐命、黒き御縵を取りて投げ棄つるに、 乃ち蒲子生りき。是を摭ひ食む間に、逃げ 行きき。猶追ひき。亦、其の右の御みづら に刺せる湯津々間櫛を引き闕きて投げ棄つ るに、乃ち笋生りき。是を抜き食む間に、 逃げ行きき。且、後には、其の八くさの雷 の神に、千五百の黄泉軍を副へて追はしめ き。爾くして、御佩かしせる十拳の剣を抜 きて、後手にふきつつ、逃げ来つ。猶追ひ き。黄泉つひら坂の坂本に到りし時に、其 の坂本に在る桃子を三箇取りて待ち撃ちし かば、悉く坂を返りき。爾くして、伊耶那 岐命、桃子に告らさく、「汝、吾を助けし が如く、葦原中国に所有る、うつしき青人 草の、苦しき瀬に落ちて患へ惚む時に、助 くべし」と告らし、名を賜ひて意富加牟豆 美命と号けき。

最も後に、其の妹伊耶那美命、身自ら追 ひ来つ。爾くして、千引の石を其の黄泉つ ひら坂に引き塞ぎ、其の石を中に置き、各 対き立ちて、事戸を度す時に、伊耶那美命 の言ひしく、「愛しき我がなせの命、如此 為ば、汝が国の人草を、一日に千頭絞り殺 さむ。」といきひ。爾くして、伊耶那岐命 の詔ひしく、「愛しき我がなに妹の命、汝 然為ば、吾一日に千五百の産屋を立てむし とのりたまひき。是を以て、一日に必ず千 人死に、一日に必ず千五百人生るるぞ。故、 其の伊耶那美神命を号けて黄泉津大神と謂 ふ。亦云はく、其の追ひしきしを以て、道 敷大神と号く。亦、其の黄泉坂を塞げる石 は、道反之大神と号く。亦、寒り坐す黄泉 戸大神と謂ふ。故、其の所謂る黄泉ひら坂 は、今、出雲国の伊賦夜坂と謂ふ。

Ⅲ. テキスト比較表

渡邉版と富安版のテキストの比較をしやすくするため、表形式にまとめたものを下記に載せる。なお、比較のしやすさを優先するため、改行については必ずしも原文通りではない。また、ふりがなや傍点等はすべて削除している。

比較の際に注目すべき部分に下線を付した。 一重下線と二重下線は、同内容の事柄を述べて いるが両作品に違いが認められる部分を示して いる。点線は渡邉版、富安版それぞれの特徴的 な表現に付した。

渡邉版

火の神を生んだことで、イザナミは命を落としてしまいました。けれど夫のイザナキは、妻を失ったことに あきらめがつかず、死者の世界である黄泉の国までイザナミを追いかけて行ったのでした。

黄泉の国は<u>地の底</u>にある国です。イザナキは暗く深い 道をたどり、ようやく黄泉の国の御殿の前にたどり着 きました。

そして大きな扉の前で、イザナキはイザナミに向かっ τ

「愛しい私の妻よ、なぜ死んでしまったんだ。私とあなたとで作った国は、まだ作り終わってはいない。だから一緒に帰ろう。出てきてほしい」

と叫びました。

すると扉の向こうからイザナミの懐かしい声が、かす かに聞こえてきました。

「もう少し早く来てくださっていれば……。<u>私はもう</u> 黄泉の国の食べ物を口にしてしまいました。一度この 国で食事をしてしまうと、もとの世界に戻れないので す。

でも、愛しいあなたが迎えに来てくれたのは、とても嬉しい。私も帰りたいと思いますから、この国の神様たちにお願いしてみることにします。でも、その間はどうか私を見ないでください」

と言います。

イザナキが、

「わかった、約束しよう」

と言うと、イザナミは御殿の奥へと入っていきました。 イザナキは長い時間、イザナミのことを待ちました。 しかし、待っても待ってもイザナミはあらわれません。 イザナキは待ちきれなくなり、扉を開き、御殿の中に

富安版

カグツチを切りころしても、イザナキの心はおさまら なかった。それどころか、死んでしまった妻にあいた いという気もちは、強くなるばかりだ。

それで、とうとうイザナキは、死者のくらす黄泉の国 まで、イザナミをたずねていくことにした。

黄泉の国は、<u>ふかく、暗い地の底</u>にある。<u>しかし、こ</u> のころにはまだ、生きているわたしたちの世界と黄泉 の国のあいだには、道がつながっていたんだ。だから イザナキは、その長く、暗い道をたどって、死者の国 へとでかけていった。

まっ暗な坂をくだって、黄泉の国にたどりついてみると、そこには大きな御殿がたっていた。

イザナキが、げんかんの戸をたたくと、入り口がわず かにひらいて、中から顔をのぞかせたのは、なんと、 死んでしまったはずのイザナミだった。

イザナキは、<u>うれしくて、うれしくて、どきどきしな</u>がら、なつかしい妻に語りかけた。

「ああ、いとしい妻よ、むかえにきたぞ。わたしたちの国づくりは、まだ、終わっていないじゃないか。さあ、いっしょに帰って、また、国づくりをつづけよう。」 するとイザナミは、悲しそうにため息をついて、こう言った。

「ああ、いとしいあなた。もうすこし早く、きてくださればよかったのに……。」

じつは、イザナミは、黄泉の国の食べものを食べてしまっていたんだ。死者の国のものを食べたら、もうもとの世界にはもどれない。それが、黄泉の国のきまりだった。

でも、イザナミだって、夫を恋しく思う気もちは、イザナキとおんなじだ。だから、イザナミは夫にこう言った。

「せっかくあなたが、はるばるむかえにきてくださったのですから、なんとか、いっしょに帰る方法がないものか、黄泉の国の神さまたちに相談してみましょう。しばらくまっていてください。

でも、わたくしがもどるまで、けっして、御殿の中をのぞいてはいけませんよ。」

そう言うと、イザナキを外にのこして、イザナミは、 真っ暗な御殿の中にはいっていってしまった。

イザナキは、まった。妻がもどってくるのをまって まって、まちつづけた。でも、イザナミは、なかなか もどってこなかった。 入りました。

御殿の中は真っ暗で何も見えません。そこで、イザナキは左右に結っていた髪の左に挿した櫛を取り、その歯を一本折って火を灯しました。<u>かよわい光を頼りに、あたりを見渡すと、</u>御殿の奥に愛しい妻が横になっています。

しかし、イザナキがイザナミに近づき、その姿を照らすと、<u>なんとイザナミにはたくさんのウジ虫がたか</u>り、コロコロとうごめいています。

そして、<u>イザナミの頭にはオオイカズチ、胸にはホノイカズチ、腹にはクロイカズチ、股にはサクイカズチ、</u>左手にはワカイカズチ、右にはツチイカズチ、左足にはナルイカズチ、右足にはフスイカズチという、八種もの雷の神が生まれていました。

生きていたときとまったく違う姿になったイザナミを 見て、イザナキはとても恐ろしくなり、その場から急 いで逃げだそうとします。

そのとき、イザナキに見られたことに気がついたイザナミは、

「<u>どうして約束を守ってくれなかったのですか。</u>よく も私に恥をかかせてくれましたね」

と言い、黄泉の国の<u>醜い女神たち</u>に命令して、イザナ キを追いかけさせます。

イザナキは一生懸命に逃げましたが、暗闇の中を女神 たちはすごい速さで追いかけてきます。

あわや追いつかれようとしたとき、イザナキは身につけていた黒い髪飾りを外し、追ってくる女神たちに投げつけました。すると、その髪飾りは山葡萄の実になりました。女神たちがその山葡萄を食べている間に、イザナキはさらに遠くに逃げました。

しかし、女神たちは<u>山葡萄を食べ終わると、</u>また凄ま じい速さで追いかけてきました。

イザナキは、こんどは右の髪に挿していた<u>櫛を取り、</u> 地面に投げつけます。

すると櫛は、瞬く間にタケノコになりました。醜い女

いったい、どうしているのだろうと心配になったイザナキは、自分の頭の左がわにさしていた、大きなくしをぬきとると、そのくしの歯の一本をボキンとおりとった。

そして、おったくしの歯に、こっそりと火をつけた。 もえるくしの歯を小さなたいまつのようにかかげ、イ ザナキは、そうっと、そうっと、黄泉の御殿の中に足 をふみいれた。

けっしてのぞくな、と言われていた御殿の中を見たと たん、イザナキはおどろきのあまり、こしをぬかしそ うになった。

御殿の暗闇の中には、イザナミのしかばねがよこたわっていた。あの、美しく、いとしい妻のすがたはどこにもなく、そこには、<u>くさり、くちはて、うじのわいたむくろが、ころがっていた。</u>

しかも、<u>その体の上には、八体の雷神がうずくまって、</u> ゴロゴロと雷の音をとどろかせているではないか。

あまりのおそろしさに、イザナキは、<u>火をともしたく</u> しの歯をなげすて、逃げ出した。

すると、<u>暗闇のおくから声が聞こえてきた</u>。 それは、<u>いかりにもえる</u>イザナミの声だった。 「よくも、よくも、わたくしに、はじをかかせました ね!けっして、見てはいけないと言ったのに!」 なにかが、闇のむこうからザワザワと、イザナキを追 いかけてきた。

イザナキが走りながら、ちらりとふりかえってみると、<u>恐ろしい顔をした死者の国の女たち</u>が、わらわらと追いかけてくるのが見えた。<u>ヨモツシコメと呼ばれ</u>る、黄泉の国の使いたちだ。

イザナキは、黒いつる草の髪かざりを後ろになげつけた。

すると、そのとたん、<u>髪かざりからつるがのび、葉が</u>しげり、おいしそうな山ぶどうがどっさりとみのった。 ヨモツシコメたちは、<u>ぶどうのしげみにとびつき、む</u>しゃむしゃとあまい実を食べている。

「いまだ!」と、イザナキは、ずんずんにげた。

しかし、ヨモッシコメたちは、 $\underline{aoというまに、ぶど}$ うを食べつくしてしまった。

そしてまた、イザナキのあとを、ものすごい速さで追いかけてきた。

イザナキは、こんどは、頭の右がわにさしていたくしをぬきとった。そして、<u>そのくしの歯をボキボキとお</u>りとって、ヨモツシコメめがけてなげつけた。

神たちは、そのタケノコを引き抜いて、むしゃむしゃ と食べはじめました。その間に、さらにイザナキは遠 くまで逃げることができました。

次にイザナミは、八種の雷の神に命令して、千五百人 もの黄泉の国の兵士たちと一緒にイザナキを追いかけ させました。イザナキは身に付けていた剣を抜いて、 後ろに振りかざしながら、なんとか軍勢たちから逃れ ることができました。

そして、ようやくイザナキがヨモツヒラサカという坂 のふもとまでたどり着くと、そこには桃の木が生えて いました。

イザナキはその木から桃の実を三つ取ると、追いかけてくる軍勢めがけて投げました。すると桃の実の魔除けの力で、追いかけてきた軍勢はすべて引き返していきました。

イザナキは桃に感謝して、

「桃の実よ、いまここで私を助けてくれたように、これからもこの世界で生きている人々が困ることがあったら、どうか同じように助けてあげてほしい」と言いました。

そして桃に、大きな霊力の意味を持つオオカムズミと いう名前を授けたのでした。

一方、黄泉の国では雷の神と軍勢が逃げ戻ってきたので、<u>怒りの収まらないイザナミは、自らイザナキを追</u>いかけてきました。

それに気がついたイザナキは、千人がかりでなければ動かすことができない大岩を引っ張ってきて、ヨモッヒラサカを塞ぎました。これで黄泉の国からは誰も出てくることができません。

<u>仲が良かったころのイザナキとイザナミは、柱を挟んで向かい合いましたが、今度は大岩を挟んで向かい合います。</u>

すると、地面におちたくしの歯から、つぎつぎに、たけのこがはえだした。

ヨモッシコメたちは、ゆくてをふさぐたけのこの林の中に立ちどまり、むしゃむしゃ、もりもり、タケノコを食べ始めた。どうやらもう、イザナキを追いかけることなんて、わすれてしまったみたいだ。

イザナキがほっと息をついたとき、また、黄泉の国の 闇の中から、なにかがせまってくるけはいがした。 ゴロゴロゴロと、ぶきみな音がひびく。

ザクザクザクと、足音が聞こえる。

それは、イザナミのしかばねにむらがっていた、あの 八体の雷神たちだった。雷神たちが千五百もの黄泉の 国の軍勢をひきつれ、イザナキを追いかけてきたんだ。 イザナキは、こしの剣をすらりとぬきはなった。その 剣を後ろ手にふりながら、ひっしに走っていくと、 やっと、黄泉の国のはずれの坂が見えてきた。黄泉比 良坂とよばれる坂だ。あの坂をのぼれば、もとの世界 に帰れるのだ。

しかし、追っ手たちはもう、すぐ後ろにせまっていた。 イザナキは、坂のふもとにはえる大きな桃の木のかげ に身をかくした。そして、桃の実を三つもぎとると、 息をひそめて、せまってくる追っ手をまちかまえた。 ザワザワザワと追っ手たちが坂の下に押しよせてくる。 「えいっ!」

その追っ手めがけて、イザナキは桃の実を力いっぱい なげつけた。

すると、どうだろう。

黄泉の国の軍勢は、みんなたちまち、にげていってし まったんだ。

イザナキは、桃の実の力に感心して、こう言った。 「おまえに、オオカムヅミという神の名をあたえよう。 いま、わたしをたすけたように、もし、人々がつらい めにあってくるしんでいたら、たすけてやっておく れ。」

やっと追っ手がいなくなり、イザナキは、黄泉比良坂 をいそいでのぼりはじめた。

しかし、坂のとちゅうで死者の国をふりかえったイザ ナキは、はっと息をのんだ。自分を追いかけてくるイ ザナミのすがたが後ろにせまっていたからだ。

それを見たイザナキは、千人がかりでやっとうごくほどの巨大な岩を、黄泉比良坂のなかほどにひきすえて、黄泉の国への道をふさいでしまった。

<u>イザナキ・イザナミの夫婦の神さまは、岩をはさんで</u> <u>むかいあった。</u> イザナキは、

「愛しい妻よ、もうこれまでだ。もう夫でも妻でもないのだ」

と別れの言葉を告げました。

これに対し、イザナミは怒りをおし殺しながら、

「愛しい我が夫よ、あなたがこのようなことをなさる のであれば、私はあなたの国の人々を一日千人、絞め 殺しましょう!

と告げました。

イザナキは、

「愛しい我が妻よ、おまえがそうするのなら、私は一 日に千五百人の赤ん坊が産まれるようにしよう」 と言いました。

このようにして、この世では一日千人が亡くなり、千 五百人が生まれるようになったのです。

黄泉の国にとどまったイザナミは、ヨモツオオカミと呼ばれるようになりました。

「いとしい、わたしの夫よ。あなたがこんなことをなさるのなら、わたしはこれから、あなたの国の人々を、一日に千人しめ殺しましょう。」とイザナミが言った。「いとしい、わが妻よ。それなら私は、赤ちゃんの生まれる産屋を、この国に一日、千五百ずつたてよう。」と、イザナキが言った。

このときから、この国では、一日に千人が死に、一日 に千五百人が生まれるようになったというわけだ。 イザナミは、黄泉の国の大神、ヨモツオオカミになっ た。黄泉比良坂をふさいだ岩は、黄泉戸大神とよばれ、 この黄泉比良坂は、出雲の国の伊賦夜坂という坂のこ とだと言われている。

IV. 富安版との比較から見える 渡邉版の特徴

渡邉版と富安版を比較するに、次のような違いが認められると考える。

- ①富安版に比して、渡邉版の記述には簡潔な 傾向が認められる。
- ②イザナキが黄泉の国の御殿に入っていく場面の流れに相違が認められる。
- ③イザナキとイザナミが別れる場面の描き方 に違いが認められる。
- ④古事記独自の世界設定や登場人物に関する 説明にも、一部違いが見られる。

以下、具体的に見ていく。

(1) 記述の簡潔さについて

表1を一見してわかるように、渡邉版の方が 文の量が少ない。前稿でも指摘したが、富安版 は、心情や行動の描写、情景描写に筆を割くこ とが多いという特徴をもつ。それに対して渡邉 版は簡潔な表現にとどめている箇所が多い。例 えば物語の冒頭、イザナキが黄泉の国にイザナ ミを追いかけて行こうと決心する下りには、次 のような違いがある。

富安版では次のようになっている。

カグツチを切りころしても、イザナキの 心はおさまらなかった。それどころか、死 んでしまった妻にあいたいという気もち は、強くなるばかりだった。

同じ箇所、渡邉版では「けれど夫のイザナキは、妻を失ったことにあきらめがつかず」となっている。

古事記には、黄泉の国訪問に到ったイザナキ の心情の説明はない。妻を死に至らしめた子、 カグツチの首を切り落としたこと、それにより 多くの神が出現したことを述べた後、「是に、 其の妹伊耶那美命を相見むと欲ひて、黄泉国に 追ひ往きき。| となっている。

子ども向けに再話する場合、わかりやすさに 配慮することを考えるのならば、この場面での イザナキの心情の説明は必要だろう。両作品と もその配慮の元、イザナキの心情に言及してい るが、イザナキの悲しみや苦しみを劇的に表現 する富安版に対して、渡邉版は簡潔な表現にと どめている。

情景や行動の描写に違いのあるところの例としては、イザナキが投げた髪飾りが山ブドウに変わるところを挙げる。古事記では「伊耶那岐命、黒き御縵を取りて投げ棄つるに、乃ち蒲子生りき。是を摭ひ食む間に、逃げ行きき。」となっている部分である。

富安版では、次のようになっている。

イザナキは、黒いつる草の髪かざりを後 ろになげつけた。

すると、そのとたん、**髪かざりからつる がのび、葉がしげり、おいしそうな**山ぶど うがどっさりとみのった。

ヨモツシコメたちは、*ぶどうのしげみに* とびつき、むしゃむしゃとあまい実を食べ ている。

「いまだ!」と、イザナキは、ずんずん にげた。

これに対して渡邉版は、次のようになっている。

イザナキは身につけていた黒い髪飾りを 外し、追ってくる女神たちに投げつけまし た。すると、その髪飾りは山葡萄の実にな りました。女神たちがその山葡萄を食べて いる間に、イザナキはさらに遠くに逃げま した。

富安版では、太字部分のように髪飾りがブドウに変化する情景を具体的に描写している。また、ヨモツシコメが山ブドウをむさぼる様を、斜体文字部分のように描写している。一方渡邉版には、これらのような描写は加えられていない。古事記の表現により近い形になっていると言える。

さらに、ともに心情描写が見られるものの、 その描き方に違いがある箇所もある。 黄泉の国 にたどり着いたイザナキが、一緒に地上に帰ろ うとイザナミに訴える場面である。

富安版では、イザナミに会えたイザナキの喜びや期待を次のように表現している。

イザナキは、うれしくて、うれしくて、 どきどきしながら、なつかしい妻に語りか けた。

「ああ、いとしい妻よ、むかえにきたぞ。 わたしたちの国づくりは、まだ、終わって いないじゃないか。さ、いっしょに帰って、 また、国づくりをつづけよう。」

一方渡邉版では、イザナキの気持ちについて 喜びと言うよりは必死さ悲痛さがより伝わる描 写となっている。

そして大きな扉の前で、イザナキはイザ ナミに向かって、

「愛しい私の妻よ、なぜ死んでしまった んだ。私とあなたとで作った国は、まだ作 り終わってはいない。だから一緒に帰ろ う。出てきてほしい」

と叫びました。

なお、この部分においては古事記はイザナキ の心情に言及していない。

死者の国を舞台とする黄泉国訪問神話では、変わり果てたイザナミの姿が描かれたり、得体の知れない黄泉の国の住人たちによる執拗な追跡が繰り返されたり等、スリリングな場面があることが物語の面白さの一つとなっている。再話の際には、これらの部分の描写に工夫が凝らされることが多い。

富安版でも、節度は見られるものの、「くさり、くちはて、うじのわいたむくろが、ころがっていた。」と、イザナミの姿を具体的に描写している。これに対して渡邉版は「なんとイザナミにはたくさんのウジ虫がたかり、コロコロとうごめいています。」と、虫に関する表現にとどまっている。古事記には「うじたかれころろきて」とあり、虫が集っている様子のみを伝えているが、渡邉版の表現はそれに近いと言える。

追跡場面についても、富安版はオノマトペを 効果的に使うなどして、かなり詳しく描写して いる。

イザナキがほっと息をついたとき、また、黄泉の国の闇の中から、なにかがせまってくるけはいがした。

ゴロゴロゴロと、ぶきみな音がひびく。 ザクザクザクと、足音が聞こえる。

それは、いざなみのしかばねにむらがっていた、あの八体の雷神たちだった。雷神たちが千五百もの黄泉の国の軍勢をひきつれ、イザナキを追いかけてきたんだ。

これに対して渡邉版は次のようになっている。

次にイザナミは、八種の雷の神に命令して、千五百人もの黄泉の国の兵士たちと一

緒にイザナキを追いかけさせました。

渡邉版は、「且、後には、其の八くさの雷の神に、千五百の黄泉軍を副へて追はしめき。」 となっている古事記の表現に近いと言える。

(2) イザナキが黄泉の国の御殿に入っていく場面について

イザナミの返答を待ちきれずに、黄泉の国の 御殿の中に入っていく部分の流れについて、富 安版では、扉の外でユツツマグシに火を灯し、 御殿の中に足を踏み入れている。富安版では、 尋ねてきたイザナキに対してイザナミは、御殿 の戸を少しあけて顔をのぞかせている。そし て、イザナミが黄泉の国の神と話し合うために 建物の奥に入った際に戸が閉められたとの記述 はない。イザナキは、建物内部が暗いことを戸 の隙間から知り、先に火を灯したと解せる書き 方になっている。

一方渡邉版では、イザナミはイザナキと扉越 しに話しており、扉の向こうにイザナキを待た せたまま建物の奥に入って行っている。その後 イザナキは待ちきれなくなって扉を開き御殿の 中に入った後、その暗さにユツツマグシに火を 灯した、となっている。

この部分について古事記は、「故、左の御みづらに刺せる湯津々間櫛の男柱を一箇取り闕きて、一つ火を燭して入り見し時に」と記述している。御殿の中に入る前に火を灯した、と解するのが一般的であろう。ただし、イザナキがここで初めて御殿内部が暗いことを知ったとするのなら、扉の外であらかじめ火を灯すのは不自然である。渡邉版は、読者である子どもたちの戸惑いを回避するために、あえて、御殿の中が暗かったので火を灯した、という流れにしたものと推察する。。

(3) イザナキとイザナミの別れの場面について

これまで見てきたように、渡邉版の表現は概 して簡潔であり、心情や行動、情景について詳 細に描写することは多くない。古事記の表現に 沿った再話となっていると言える。

ただし、物語の最後、イザナキとイザナミが 別れる場面では、次のように、古事記にはない 記述が多く加えられている。

仲が良かったころのイザナキとイザナミは、柱を挟んで向かい合いましたが、今度は大岩を挟んで向かい合います。

イザナキは、

「愛しい妻よ、もうこれまでだ。もう夫 でも妻でもないのだ」

と別れの言葉を告げました。

多くの子(国土や神々)を生み出した夫婦の 永遠の別れを、愛に満ちた過去の場面を想起さ せつつもそれぞれの道が二度と交わることがな いことを、イザナキの宣言をもって伝えてい る。そしてそのようなイザナキに対してイザナ ミは「イザナミは怒りをおし殺しながら」

一日千の人を絞め殺す、と応じるのである。 イザナキとイザナミの亀裂の深さをもって、 生者の世界と死者の世界とが断絶し、行き来が 不可能になったことを強く印象づけるものと言 えるだろう。

一方富安版では、「イザナキ・イザナミの夫婦の神さまは、岩をはさんでむかいあった。」と簡潔に述べるにとどめている。これは、古事記の「爾くして、千引の石を其の黄泉つひら坂に引き塞ぎ、其の石を中に置き、各対き立ちて、事戸を度す時に」に近い。

すべての場面に渡って渡邉版の方が簡潔で古 事記に近い、ということではないことがここか らわかる。

(4) 古事記独自の世界設定や登場人物について の説明

古事記神話には、子ども読者にはなじみのない登場人物や世界設定等が見られる。それらの説明には、両作品共通に見られるものもあれば、どちらかにしか見えないものもある。ここでは、その状況について整理しておきたい。

渡邉版、富安版両方に見られるのは、黄泉の 国についての説明、黄泉の国の食べ物を食べて しまうと生者の世界に戻れないという設定の説 明、黄泉の国と生者の世界との間にイザナキが 引き据えた千引きの大岩についての説明、最終 的にイザナミがヨモツオオカミになったことの 説明である。

イザナミの死体から産まれた雷神の名については、渡邉版ではすべて挙げられている。富安版は、絵本等に比べると神の名を紹介することが多いが、ここでは省略されている。

逆にヨモツシコメについては、富安版は「恐ろしい顔をした死者の国の女たちが、わらわらと追いかけてくるのが見えた。ヨモツシコメと呼ばれる、黄泉の国の使いたちだ。」と記述しているが、渡邉版にはヨモツシコメの呼び名は出てこない。「醜い女神たち」とするのみである。

黄泉の国の軍勢の撃退に功績のあった桃の実の霊力については、渡邉版は「魔除けの力」と明示しており、与えた名「オオカムズミ」が「大きな霊力の意味を持つ」ことについての言及もある。富安版では、「オオカムヅミ」の名が与えられたことには触れているが、桃の実の霊力には触れて折らず、イザナキが桃の実の力に感心した、と述べるにとどまっている。

ヨモッヒラサカをふさいだ岩は黄泉戸大神と よばれ、ヨモッヒラサカは、出雲の国のイフヤ サカだと言われていることについては、富安版 は触れているが、渡邉版には見えない。

V. まとめと残された課題

以上、渡邉版と富安版の黄泉国訪問神話再話 作品について見てきたが、その特徴には違いが あることがわかった。

富安版が、幼い子どもでも親しみやすいオノマトペを多用するなどの表現上の工夫をこらしつつ古事記にはない心情描写や状況描写に筆を割くのに対し、渡邉版はより簡潔で古事記に近い表現が多く見られるという傾向が認められると考える。このことは、渡邉版が、「古事記学の推進拠点形成」事業の活動の一つであった古事記に忠実な子ども向けテキストの制作過程の中で成立した作品であることと関わろう。

前稿で分析を試みた荻原規子文・斉藤隆夫 絵・三浦佑之監修の絵本『国生みのはなし~イ ザナキとイザナミ~』も、古事記に沿ったテキ ストであった。しかし絵と文を併せて物語世界 を楽しむ絵本とは異なり、テキストをたよりに 物語を読み進めていくことになる渡邉版を楽うし むには、心情や情景等を自らの想像力で補完して とが求められる。テキストの行間を補完してのわ かりやすい描写もない渡邉版を通して古事記の 世界を楽しむには、相応の読書力が必要と考え る。両作品それぞれの出版社が想定している読 者層を比較するに、渡邉版の方がやや高くなっ ているのも当然だろう。

なお、萩原規子文・斉藤隆夫絵・三浦佑之監 修の絵本『国生みのはなし~イザナキとイザナ ミ~』も、古事記に沿った再話作品であること を、前稿にて確かめたと上でも述べたが、テキ ストに限定して捉えるのなら、萩原作品と渡邉 版には共通する傾向が認められることになる。 とはいえ、それぞれの再話のコンセプトには違 いがあるのではないかと考えるものだが、この 点については、いずれ改めて検討したい。

注

- 1) 原田留美、2021年、古事記神話の再話作品のテキストについて一黄泉の国訪問神話の場合一、東京都市大学人間科学部紀要、第12号、11-23
- 2) 『古事記学の推進拠点形成―世界と次世代に語り 継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信― 古 事記学事業報告書』135頁・139頁。なお、本事 業は28年度の文部科学省「私立大学研究ブラン ディング事業」において選定された事業の一つで ある。
- 3) 谷口は、「古事記学の推進拠点形成」事業を担った、國學院大學の古事記学センター長である。このほか、三浦は小学館の「日本の神話 古事記えほん」シリーズも監修している。古いものでは、1980年代に刊行されたトモ企画の「日本の神話」シリーズも、折込付録の参考文献一覧から日本の神話研究の成果を広く踏まえた絵本であることがわかる。ただし、監修等で特定の研究者が関わったということは無いようである。なお、このシリーズは、1990年代にあかね書房から再刊された。
- 4) 汐文社サイト、https://www.choubunsha.com/book/9784811326771.php 偕成社サイト、https://www.kaiseisha.co.jp/books/9784037448707 ともに 2021 年 10 月 31 日閲覧
- 5) テキストは、新編日本古典文学全集『古事記』を 用いた。
- 6) なお、古事記におけるイザナミによるイザナキの 出迎え方については、解釈が分かれている。古事 記原文は「自殿縢戸出向之時」となっているが、 これを「殿の縢戸より出で向かふる時」とよむの なら、「御殿の戸のところで出迎えたときに」と 解せる。「殿より戸を縢ぢて出で向かへし時に」 とよむのなら、「御殿の戸を閉ざして外へ出て出 迎えたときに」ということになる。日本思想体系 版『古事記』・『古事記 神話と天皇を読み解く』 は前者、新編日本古典文学全集版『古事記』・『口 語訳古事記完全版』は後者を採る。渡邉版、富安

版ではともに、イザナミは扉から外には出ていない。子ども読者への配慮の結果の工夫か。

引用・参考文献一覧

- 渡邉卓文監修・六七質絵・24 絵、2021 年、こんなに おもしろい日本の神話(1) 天地の始まり編 アマテ ラス、汐文社
- 富安陽子文・山村浩二絵・三浦佑之監修、2017年、 絵物語古事記、偕成社
- 荻原規子文・斉藤隆夫絵・三浦佑之監修、2016年、 国生みのはなし~イザナキとイザナミ~、小学館
- 國學院大學古事記学センター編、2021 年、文部科学 省平成 28 年度選定「私立大学研究ブランディング 事業」古事記学の推進拠点形成一世界と次世代に語 り継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信―古事 記学事業報告書、学校法人國學院大學
- 菅野雅雄編著、2012年、古事記―神話と天皇を読み 解く―、新人物往来社
- 三浦佑之、2003年、口語訳古事記完全版、文藝春秋 山口佳紀・神野志隆光校注、1997年、新編日本古典 文学全集古事記、小学館
- 青木和夫・石母田正・小林芳規・佐伯有清校注、1985 年、日本思想体系古事記、岩波書店
- 窪薗晴夫編、2017 年、オノマトペの謎─ピカチュウからモフモフまで─、岩波書店
- 三浦佑之、2007年、古事記のひみつ 歴史書の成立、 吉川弘文館
- 原田留美、2021年、古事記神話の再話作品のテキストについて一黄泉の国訪問神話の場合―、東京都市 大学人間科学部紀要、第12号、11-23
- 原田留美、2020年、古事記神話の子ども向け再話に ついて一世界創世神話と黄泉国訪問神話の場合一、 文学・語学、第229号、131-132
- 原田留美、2017年、古事記神話の幼年向け再話の研究、 おうふう